

# JISK

(司法手続きき仲介者  
スターターキット)

モジュール 2

司法手続きき仲介者(JI)の役割

[www.justiceintermediary.org](http://www.justiceintermediary.org)





# 【国連：「障害者の司法手続きの利用の機会に関する国際的原則および指針」(2020年8月)】

**原則1：**全ての障害者は、法的能力を有しており、したがって、何人も障害を理由に法手続きの利用の機会を否定されない。

**原則2：**障害者を差別することなく司法への平等な利用の機会を確保するため、設備およびサービスはすべての人にとって利用可能でなければならない。

**原則3：**障害者（児童を含む）は、適切な手続的配慮に対する権利を有する。

**原則4：**障害者は、他の者との平等を基礎として、時宜を得たかつ利用可能なやり方で法的な告知および情報にアクセスする権利を有する。

**原則5：**障害のある人は、国際法で認められているすべての実質的および手続き上の保障措置を他の人と平等に受ける権利があり、国は適正手続きを保証するために必要な配慮を提供しなければなりません。

**原則6：**障害者は、無償の又は負担しやすい費用の法的援助に対する権利を有する。

**原則7：**障害者は、他の者との平等を基礎として司法の行政上の手続きに参加する権利を有する。

**原則8：**障害者は、人権侵害および犯罪について申立てを行ないかつ司法手続きを開始する権利、申立てについて調査される権利および効果的な救済措置を与えられる権利を有する。

**原則9：**効果的でしっかりした監視機構は、障害者の司法手続きの利用の機会を支えるうえできわめて重要な役割を果たす。

**原則10：**司法制度で働くすべての者に対し、とくに司法手続きの利用の機会の文脈における障害者の権利について扱った意識啓発および研修のプログラムが提供されなければならない。

司法仲介者(JI)の主要な役割は、障害者の法制度への効果的な参加を最大化し、障害が正確性、信頼性、一貫性に与える影響を最小限に抑えることです。

障害者の効果的な参加に悪影響を与える多くの伝統と長年のシステムがあります。

JIは、事件への中立性を保ちながら、コミュニケーションを改善し、障害者のニーズを満たすことができるように、システムの変更を推奨する場合があります。

# 呼称に表れる役割 国によって異なったJIの呼称

## カナダ

コミュニケーション・アシスタンス

## 米国バーモント州

コミュニケーションサポート  
・スペシャリスト

## イングランドとウェールズ

証人のための正規仲介者（対象者が証人以外の場合は正規の資格保有者として扱われない）

## イスラエル、メキシコ、スペイン

ファシリテーター

## ニュージーランド

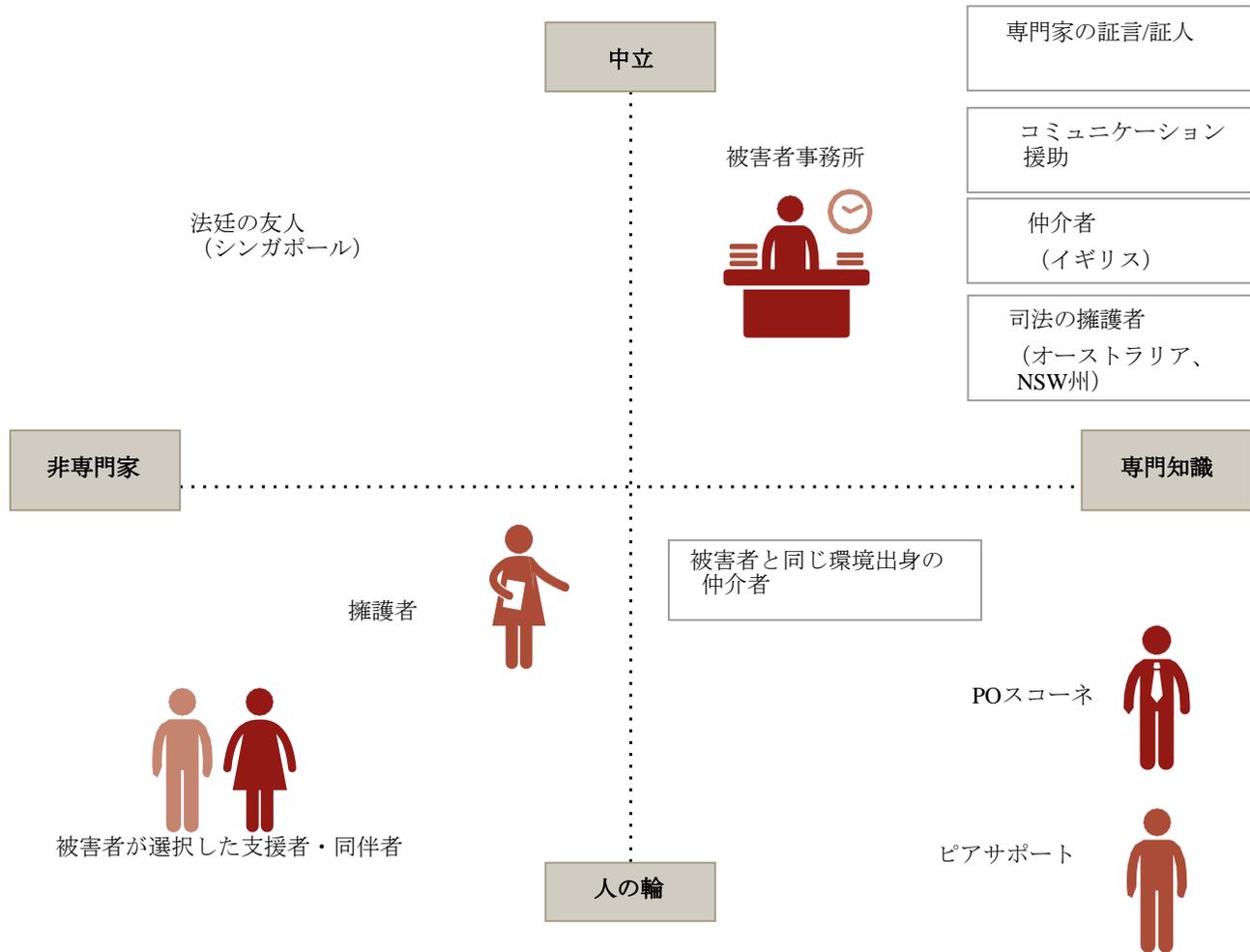
コミュニケーション・アシスタンス



それぞれの名前が、JIを実施している国におけるその役割を反映しています。次のページの図はその位置づけを示し、さらにモジュール9の「世界のJIの実践」でより詳しく述べています。JISKは、その国のニーズに最も適したものとして導入する必要があるからです。



# 司法へのアクセス：支援する人たち



**支持者/同伴者：**ニュージーランド、スペイン、EUの法律。

**適切な大人：**(イギリス、シンガポール)、独立した第三者(ビクトリア、オーストラリア) –警察の面接中や指紋取得の際に立ち会う必要があります–与えられた証拠は法廷で却下される可能性があります。

**仲介者/コミュニケーション援助：**さまざまな役割があります。すべての手続き中に立ち会う役割もあれば、証拠提出の際にのみ立ち会う役割もあります。被害者をサポートするために考案された役割もあれば、すべての関係者間のコミュニケーションを促進することを想定した役割もあります。



## JIの役割の重要な原則

- **中立性**– JIは、担当するケースが、刑事事件であろうと民事事件であろうとその内容に関与せず、誰の側にも立ちません。障害が事件に与える影響を説明することはJIの役割ではありません。JIが果たす役割は障害が「司法手続き」に与える影響を説明することです。障害のある人の司法における正義を擁護することは、その人に味方するというものではありません。
- **守秘義務**– JIは守秘義務を守り、法的手続きの範囲外で個人または事件に関する詳細について口外してはいけません。
- **アドバイザー**– JIは、障害に応じた合理的配慮のアドバイスをしますが、配慮を提供するかどうかの決定は裁判所が行います。
- **法的アドバイザーではありません**– 弁護士の言葉を簡略化し、効果的な意思疎通を可能にするだけです。
- とくに意思疎通の分野において、障害者支援の経験がある者
- **専門性**– JIは、JIは、自分の仕事の境界線を知っており、他の専門職や一般の人に説明できる。



JIの役割について説明する際に、ある法域の首席裁判官は次のように述べています：

“ 仲介者は証人の感情面の支援者ではありません。彼らは中立で独立しており、裁判所に支援を提供し、裁判所に責任を負います。彼らの存在は、裁判官、法律専門家、障害者が、お互いに理解しあえるよう補助する役割が期待されています。





# JI候補者の資質、保有すべきスキル

- 障害者（児）が意思疎通できるように支援する専門的スキル
- ラポールを形成できる一初対面で、特定の期間だけの関わりで信頼関係を築ける
- コミュニケーションの崩壊を克服するために、障害者と他の当事者との間のコミュニケーションを積極的に促進した経験
- 報告書作成およびグループへの情報提示の経験を含む、口頭および書面による優れたコミュニケーションスキル
- さまざまな専門家と協力した経験と、すべての関係者が利用できるように情報を調整する能力
- 応用力およびプレッシャーの下でクリエイティブな発想で働ける能力

これらの属性について詳しく説明します...

## 専門的なスキル

専門的なスキルは、地域のリソースとサービスに依存します。このスターターキットは、どのような専門的な経歴がJIに最も適しているかを示していません。最も頻繁に採用される専門家は、スピーチと言語の専門家、心理学者、特別支援教師、作業療法士、弁護士です。ただし、例外があり、これらの職業以外で、必要なスキルを持っている個人も考慮される場合があります。

どのような経歴であっても、JIにとって能力の境界を認識することが重要になります。たとえば、障害のある人が激しい発作を持っている、JIが幼児を扱う専門家である場合、JIは、同僚に任せるか（可能な場合）、自分が適切な専門家プロフィールに合っていないことを司法制度に説明する必要があります。JIは、支援しようとしている障害の種類についての経験が必要です。

## 信頼関係を確立する能力

JIは、比較的短期間、障害者と関わることになります。JIは、事前にその障害者を知ることはほとんどなく、司法制度の手続きが終了した後は、連絡を取らなくなります。

実際、中立性に影響を与える可能性があるため、JIは事前にその人物を知らないことが推奨されます。ただし、同じJIが、同じ障害者の異なる手続きを援助する場合があります。たとえば、最初は刑事事件、次に民事事件または家族問題などです。

効果的に活動するために、JIは最初の1つか2つの面談の中で信頼関係、つまり協力関係を確立する必要があります。このスキルは、多くの場合、障害のある人びとと一緒に働いた経験から生まれます。まれに、信頼関係が確立されない場合があります、その時には別のJIが必要になります。



## 積極的にコミュニケーションを促進した経験

コミュニケーションの促進は、JIの仕事の中心となるものです。JIは、障害者のニーズや、配慮によって効果的なコミュニケーションをどのように強化できるかを理解できなければなりません。

この教材のモジュール3では、コミュニケーションを理解する上でJIに必要とされる知識について詳しく説明しています。各管轄区域は、JI候補者がどれくらい事前の知識が必要か、JIトレーニングコースでどれくらい教えるかを判断しなければなりません。いずれにせよ、候補者の知識の空白部分に対して確実に対処することが重要です。



## 優れたコミュニケーション能力

司法制度と司法のメンバーは、口頭と書面の両方の形式で、複雑な言語と専門用語を使用することでよく知られています。法律専門家と障害者との間のコミュニケーションを促進する者として、双方の効果的なコミュニケーションを最大化することに重点が置かれています。

これは、すべてのJIがすべての法的用語を理解する必要があるという意味ではありません。JIが特定の専門用語をあまり知らないことがかえって有益な場合がしばしばあります。それにより、JIは、どのような想定がなされるかを認識できるからです。たとえば、弁護士が「この件は第20項に基づいて検討すべきである」と指摘した場合、JIが「第20項」の説明を求めることは許容されます。

これは、障害のある人が説明を求めることを奨励し、理解できないのは自分だけではないという感覚を与えることにつながります。JIは、すべての関係者が効果的にコミュニケーションできるように、積極的に発言する必要があります。

JIは、専門的な方法で推奨事項を説明し、正当化する必要があります。これは口頭と書面の両方で行われます。

## 学際的な仕事の経験

JIは、警察、ソーシャルワーカー、裁判官、弁護士、教師など、さまざまな専門家と協力する必要があります。さらに、障害者の家族、支援者、介護者とのコミュニケーションを取ることが求められます。JIは、その人の事件の調整官でも管理者でもありません。そして、機密情報を不適切に共有しないようにする必要があります。

これらの人びとのかかわりの背後にある理由は、たとえば、家族なのか教師なのかによって異なります。

JIは、被害者がコミュニケーションをとるのに役立つ情報を入手したいと思うかもしれませんが、警察や司法の側の人々に対しては、効果的なコミュニケーションのための戦略を提案し、コミュニケーションサポートを提供します。

JIは、自らの役割の境界を理解しながら、すべての人と連絡を取り合うことが期待されます。たとえば、被告側弁護人と話すとき、または加害者が有罪判決を受ける可能性がどれほどあるかを知りたいがっているレイプ被害者またはその家族に意見を述べるときに、証拠の是非に触れないことは重要です。



## 報告書作成の経験

J1候補者の資質、保有すべきスキルは、その国がどのようなスキームのもとに取り組みを進めるかによって異なります。スキームによっては、報告書作成で求められるのは、配慮すべき事項の簡単なリスト作成程度のみというような場合もあります。

一方、国のスキームによっては、推奨する配慮を裏付けるための入念なアセスメントやその結果を記した報告書が求められる場合もあります。その場合、J1に必要とされるスキルは異なります。今後このスキームを計画する国は、自国ではどのように進めたいのか決める必要があります。モジュール6「ニーズのアセスメントと報告書作成」で報告書の形態と内容に関する情報を提供します。



## J1候補者の資質、保有すべきスキルの例

### プロ意識

J1は、立場の弱い目撃者、警察官、法律専門家など、さまざまな人びとと協力する必要があります。J1はそれぞれに応じて自らの接し方を適応させなければなりません。

### 信頼性

J1は、刑事司法の専門家と、立場の弱い証人の両方に信頼されるような人格を確立しなければなりません。

### 親しみやすさ

J1は、一般の人びとと専門家の両方が理解できるような仕方でコミュニケーションを図る必要があります。

### 柔軟性

J1は、数日のうちに証人を評価しなければならない場合があります。そのため、柔軟なアプローチが必要になります。J1の職務はさまざまな場所で行われる可能性があるため、旅行をいとわないことが不可欠な要素となります。

### 中立性

J1は、事件の証人や特定の当事者ではなく、裁判所と司法の利益に奉仕するために任命されています。

### レジリエンス

J1は、児童保護や性的犯罪など、感情的に困難なケースにおいて行動を求められる場合があります。

### プレッシャーの下で働く能力

司法制度の時間尺度と日程は、予測不可能で急に変更される可能性があります。

### アンバサダースキル

この仕事は、刑事司法制度の開発中の職業であるため、J1は自らの役割を説明し、信頼できる専門家としての存在を提示できなければなりません。



障害のある人びとが利用できるサポートには通常多くの種類があり、さまざまな役割が混乱を招く可能性があります。以下は、あなたが遭遇するかもしれない状況のいくつかの例です：



### 法律とは無関係な擁護者

障害者のニーズに関連する人権問題を認識し、彼らに代わって主張する人。

そのやり方は思い入れの程度が強いかもかもしれません。



### 「適切な大人 (Appropriate Adult)」

警察から独立した立場で、警察の取り調べや留置の際に、障害のある当事者の権利と福祉が守られるために任命された人。

コミュニケーションの専門家ではなく、当事者のアセスメントも行わない。法廷での役割もない。



### 通訳者

当人が当地の司法制度の言語を話さない、または十分に話せない場合、通訳を呼んで通訳してもらうことができます。

状況によっては、通訳が直接的な通訳に加えて、何が起きているのかを説明することがあります。



### 被害者または被告人の個人的な精神的サポート

通常、裁判官と話すことはできず、裁判所の職員として見なされます。被害者にとって通訳の確保は大切な権利です。



# JIの役割の解釈における多様性

国際的には、仲介サービスの方法や仲介者の役割に違いがあります。すべての仲介サービスが導入すべきいくつかの重要な原則がありますが、このスターターキットは導入すべき特定のモデルを指定していません。

この教材は、管轄区域が独自の状況を検討し、最善の進め方を判断することを奨励します。

モジュール9「世界中の司法仲介者」では、さまざまな法域でその役割がどのように定義されているかについて説明します。

ほとんどの場合、原則は同じままですが、司法制度、優先順位、教材が解釈に影響を与えています。

## 詳細に検討した原則の1つ

### 証拠の汚染

JIの役割には、公平性と中立性が不可欠です。このことが守られないと、証拠が汚染される可能性があります。JIが入る目的は「合理的配慮の提唱」のみです。誰かにとって「より良い結果」を導くためではありません。

JIは、事件には一切関与しません。障害のある当事者にとって司法への参加の手続きが非効率的で差別的であることに対してのみ関与します。

境界への意識、専門性、守秘義務は、すべて「証拠の汚染」の可能性をなくすためです。このことは、具体的な例を通して理解するのが最も適切でしょう。



イゾベラ – 彼女の父親の死の証人です。彼女はトラウマ体験への対処に悩んでいて、極度の不安に陥っています。

JIの役割は、彼女が法廷で証拠を提出できるようにするための配慮を提案することです。たとえば、彼女が法廷から離れたビデオリンクルームから証拠を提出し、快適な毛布を手元に置いておき、いつでも休憩を求めることができることを知っている、という状態をつくりだすことができるでしょう。

JIは、彼女が極度の不安に陥っているときに、彼女の認知スキルに過度な負担をかけるような言語の複雑さを減らすために、質問を単純化する方法を弁護士に助言します。

JIの役割は、どのような質問があるか—「彼女は母親と父親のどちらが好きでしたか？」など—を指示することではありません。その役割は裁判官と弁護士のもので、それは証拠の汚損を引き起こします。



ベン – 銀行員へのハラスメントで告発されています。彼は複数の知的障害があり、新しい状況では非常に不安になり、境界や人間関係に関する社会的ルールに困難を感じています。彼はたくさん話す傾向があり、質問/回答の状況で順番を交代するのが苦手です。

検察の主張は、ベンが銀行員に（彼女の結婚生活や子どもの計画などについて）あまりにも多くの個人的な質問をしたというものであり、こうした行動は不適切であるとみなされました。

**JIの役割は**、彼が裁判に効果的に参加できるようにするための配慮を提案することです。たとえば、彼が座る位置について、検察側の尋問の間に、不安を抑えるための休憩を許すなどの配慮です。

JIは、主たる証拠の提出の際に、彼が弁護士からの一連の質問に答えるのではなく、彼の側から見たストーリーを語ることを許されるよう求めます。とは言え、反対尋問では特定の質問が必要となります。

法廷に対して、ベンの行動を説明したり、適切な社会的相互作用の境界について彼が理解していないことを説明したりすることは、**JIの役割ではありません**。これは証拠の汚損となります。弁護側は、これがベンの弁護に不可欠であると判断するかもしれません。

次に、専門証人は、ベンの障害が、銀行に入ったときの彼の行動にどのように影響したかの説明を求められます。一部の法域では、専門証人とJIの区別があいまいになっています。そのほかに、障害の影響を陪審員に開示することが認められていない法域もあります。



デイビッド – 不法侵入について調査されています。彼は過去6ヶ月間路上で寝ていました。彼は、話すことに対する高まる不安を制御しようとしていることもあって、非常に思わせぶりで従順です。彼は読み書きができません。

**JIの役割は**、彼が逮捕された後、警察に、彼が効果的に証言できるようにするための配慮を提案することです。たとえば、JIは、彼に質問をする際に、冷静に、責められていると感じさせないような態度でそれを行うよう助言します。

すべての提案には選択肢を設ける必要があります。たとえば、「それは確かですか」、「確かではないですか」、「もう一度説明する必要がありますか？」などの選択肢です。JIは警察官に、「警告」またはミランダ法を説明する際に、ゆっくり時間をかけて言葉を単純化するように求めます。

JIは面接担当者に対して、デイビッドが面接に積極的に参加し、自分の視点からの出来事の説明ができるよう面接を実行するための最善の方法を助言します。

**JIの役割は**、事件当時のベンの行動を説明すること – たとえば「彼は当時ホームレスで、他に行くところがありませんでした」など – **ではありません**。デイビッドが「不法侵入禁止」の標識を読むことができなかったことを説明するのはJIの役割ではありません。それは証拠の汚損となるでしょう。

## まとめ

1. 世界のJIの位置づけは、国の司法制度や事情によって違いがある
2. JIの仕事には重要な原則がある
3. JI候補者があらかじめ所有すべき重要な知識やスキルがある。ただし、国によってそうした人材が限られる場合、トレーニングの内容が変わる。たとえばコミュニケーションの専門職あるいは障害者支援の経験を積んだ専門職が限定される場合、トレーニングプログラムはより長期のものになる
4. JIを採用する際に考慮すべき候補者の資質がある
5. JIの役割と他の「支援者」の役割の間には明確な境界が必要である
6. 証拠の汚染は、JIの役割の重要な公平性の側面の一部として、注意深く監視される必要がある



## 考察ツール：モジュール 2

ここでユーザーの皆さんには、モジュールの内容を振り返っていただきます。また、私たちがコンテンツの改善と更新を継続的に行う手助けをしてもらえれば幸いです。

それでは、あなたの考察を共有するために、

ここをクリック  
してください。

あなたの地域でこの役割に適切な経験を持つ専門家を採用できる可能性はどのくらいありますか？

あなたの地域では、他にどのようなサポート役がすでに存在しますか？JIの役割の境界はその人たちにどのように適合しますか？

次ページに続く...



地元の人びとを採用して訓練するのにどれくらいの時間がかかるかを考えると、ある小規模な地域/裁判所/警察署で小さな試験的プロジェクトを設計する価値がありますか？

職務記述書には何が必要ですか？

採用の最大の障壁となる可能性が高いものは何ですか？